

はじめて警察に行ってきた！！

澤 功（澤の屋旅館主人） ※この記事は日観連機関誌の2007年10月合併号に掲載されました。

「長い間、外国のお客さまを受け入れて、事件に巻き込まれたことはないんですか」と聞かれることがあります。

「これまで26年間、90カ国、延べ12万人のお客さまを受け入れましたが、盗難も喧嘩も警察沙汰も1回もないんですよ。運が良かったということがあるのかも知れませんが」と答えていました。それが、今回初めて警察に呼ばれて行って来ました。

電話で1名、7泊の予約を受けた男性のお客さまがチェックインしました。宿帳には国籍はフランス、職業はアーティストと書かれました。いつものように朝食や門限の説明をし、部屋の掃除の時間は午前10時から午後3時の間にするので部屋を空けてほしいこと、ただし、掃除をしなくてよければそのまま部屋を使っていことも説明しました。

次の日、午前10時を過ぎて他の部屋のお客さまは皆外出したのに、そのお客さまの部屋だけ出掛けません。午後になってもそのままです。「掃除をしなくていいという札がドアに掛かっていませんが、掃除をどうしますか」と係の人が聞いてきました。部屋に電話をかけても出ません。午後2時を過ぎても電話にでないので、病気にでもなっていたら大変と、ドアをノックするとやっと起き出して来ました。

次の日も午後2時過ぎの掃除になりました。1人のお客さまのために掃除の手順がスムーズに進みませんし、掃除をしなくていいという札が掛けてあるならほっとけますが、それがないので遅くともやらなければいけません。

3日目も同じです。そして毎日、シーツ、布団カバー、浴衣がまるめられていると言います。そこで、夜、帰って来たお客さまに「私どもではタオル類は毎日換えますが、シーツ類は滞在の場合2日毎に換えています」と話すと、突然、大きな声でまくしたてます。「これは私どものルールです」と言うとなお怒鳴ります。そこで、私は紙と鉛筆と辞書を持ってきて「貴方の言っていることが理解できないので、この紙に書いてください」と頼みました。書いて貰った文章を辞書で訳そうとしましたが「ナチスがどうの」と意味不明です。「私には理解できない文章です」というと、何か言いながら部屋に行きました。

4日目は、午後二時頃に出掛けて行ったので、シーツ類も浴衣も取り替えて掃除をしました。

5日目になったらまた起きてきません。何度か電話をして午後4時過ぎにやっと出たので「今日はもう掃除が出来ません」と言う「オーケー」という返事です。

夜になってお客さまは出掛けて行きました。そし

て、午後10時頃に本郷の警察から電話がかかってきました。

「お宅に泊まっているという外国人が、根津のスーパーマーケットで、女性のお客さんの足を蹴って怪我をさせたそうです。今、2人が警察にいますが、この外国人は泊まっていますか」と言われました。それはあのお客さまです。「はい、私どものお客さまです。そちらに行きましようか」と言う「お願いします」と言われました。

お世話になっている町の人に、泊まりのお客さまが迷惑をかけるなんて、私には耐えられないことです。怪我をした人に会えたらお詫びしようと思って、息子と2人で警察に行きました。

警察では別室で待たされて、いろいろと事情を聞かれました。1時間ほどして「なかなか話し合いがつかないので、朝までかかるかも知れませんのでお帰り下さい」と言われました。

翌朝、夜中まで起きて待っていた息子に話を聞くと、怪我の治療費を支払うということで話し合いが付き、警察の車で送られて来たそうです。お客さまは2日間をキャンセルして、そそくさとチェックアウトして行きました。

思わぬ結末になってしまいましたが、シーツ類の取り替えについては、これからきちんと説明しなければいけないと思いました。

ところで今年の夏は、特にフランスのお客さまが多くいらいしゃいました。でもなんの問題も起こりません。今回のことにめげずに外国のお客さまを受け入れて行こうと思います。